



本町は「日本でもっとも美しい村」連合に加盟しています。

きかい

8
No.530



涙をこらえて相手校歌を聞く喜高ナイン



2度も目前まで迫るが、遠かったホーム



レフトへ痛烈なヒット！若松選手



ベンチ外からも声を枯らして応援



3試合(うち2完封)を投げ抜いた松元投手

表紙説明

「全力の心に会える夏」とは、寿めぐみさん(喜界高校2年)が作った、今夏の甲子園の公式キャッチフレーズである。

第93回全国高等学校野球選手権鹿児島大会3回戦、対鹿児島玉龍。3年生の“最後の夏”は、この試合であった。

たしかに、県立鴨池球場で、両チームの応援する人や選手たちの「全力の心」に、会うことができた。

3年生は、練習の日々や試合の一瞬一瞬を忘れないだろう。

後輩らは、先輩から受け継がれる背番号に恥じぬように、全力で汗と土にまみれて今、白球を追いかけている。

CONTENTS

- 校章・園章を募集します…………… P2
- めざせ！サムライジャパン・
なでしこジャパン…………… P3
- シマの話題その1(郡体バレー喜界開催 他) …… P4
- 教委のとびら…………… P6
- シマの話題その2(姉妹都市伊佐市児童交流 他) …… P7
- シマの話題その3(安達文学と八月踊りを福岡で発信) …… P11
- 母校訪問 一第5回・第一中 …… P14

喜界町立幼稚園・学校の校(園)名決定

本誌、町ホームページおよび各幼稚園・小中学校を通じて、平成23年1月14日～2月15日の期間に公募し、町民の皆さまからいただいた「校名案」(応募総数：923点)をもとに、各新設校の校名が決定しましたのでお知らせいたします。

ご応募いただいた皆さまには厚くお礼申し上げます。

新設学校(園)名称

◎幼稚園

あゆみ幼稚園

(上嘉鉄小学校跡地)

のぞみ幼稚園

(志戸桶小学校跡地)

◎小学校

喜界小学校

(湾小学校跡地)

早町小学校

(早町中学校跡地)

◎中学校

喜界中学校

(第一中学校跡地)

『校名選考』の経過について

募集結果をもとに、新設校ごとの学校再編準備委員会総務部会で検討された校名案を学校再編準備委員会でさらに協議し、幼稚園2案、小学校6案、中学校2案の候補が決められました。
準備委員会から出された「校名案」の中から学校再編推進委員会において校名を決定し、6月の定例議会で、喜界町立公立学校設置条例の一部改正の議案が可決され、正式決定となりました。

「校章・園章」募集

平成24年4月から、湾・上嘉鉄・坂嶺・荒木・滝川の5幼稚園を再編して「あゆみ幼稚園」を新設し、早町・志戸桶・小野津・阿伝の4幼稚園を再編して「のぞみ幼稚園」を新設。

また、湾小学校・上嘉鉄小学校・坂嶺小学校・荒木小学校・滝川小学校を再編して「喜界小学校」を新設、早町小学校・志戸桶小学校・小野津小学校・阿伝小学校を再編して「早町小学校」を新設。

第一中学校・第二中学校・早町中学校を再編して「喜界中学校」を新設し、それぞれ開校いたします。

そこで、新しい幼稚園・学校にふさわしい「校章・園章」のデザインを広く皆さまから募集いたします。

◎デザインの応募方法

・用紙サイズは問いませんが用紙の中に縦15cm、横15cmの枠を描き、その枠内に黒書きで校章・園章をデザインしてください
(パソコン等使用可・折り目のないように送付してください)。
・枠外に「〇〇幼稚園園章」「〇〇小学校(中学校)校章」と記入

してください。

・デザインに込められた思い・願いを添えて提出してください。
・白黒画(単色・単彩)といたします。

◎応募締切日

平成23年9月15日(木)
必着

◎留意事項

- ・応募については、一人につき一校一作品とします。
- ・応募用紙に簡単な説明と住所、氏名、勤務先、電話番号(児童生徒は学校名、学年、氏名)を必ず記載してください。
- ・応募作品は未発表のものに限ります。
- ・応募作品は返却いたしません。
- ・著作権にふれないよう十分配慮してください。
- ・作品の著作権等について、第三者から異議申し立て、苦情等があった場合は、応募者が対応するものといたします。
- ・採用された作品の使用にあたっては、内容を一部変更する場合があります。
- ・応募作品は、次の提出先に持参

または郵送してください(町内の児童生徒は各学校に提出して下さい)。

◎発表

本誌およびホームページにてお知らせいたします。

◎応募先及び問い合わせ

〒891-6292
喜界町湾1746番地
喜界町教育委員会総務課
学校再編担当
TEL: 0997-65-1111(内5)
FAX: 0997-65-4760
Eメール: kyoi-s1@town.kkai.jp



来年度からは「あゆみ幼稚園」(現・上嘉鉄小)

めざせ! なでしこジャパン サムライジャパン!!

きかい100スポーツクラブ・体験フェスタ



サッカー



バスケットボール



なぎなた



バドミントン



ソフトボール



ソフトテニス



体験したスポーツで「スタンプラリー」

同クラブは、「100歳までに100のスポーツ」を合い言葉に、今年4月に組織された。今回は同クラブ未加入の児童ら約30人も参加した。

上嘉鉄小4年の平野ゆかさんは「はじめてのスポーツばかりだったけど野球がおもしろい。けっこうボールが飛んだ」と喜んだ。

総合型地域スポーツクラブの「きかい100(いちまるまる)スポーツクラブ」は7月3日、小学生約230人を集めて、スポーツ体験フェスタを町体育館と総合グラウンドで開催した。

児童らは、準備体操の後、相撲やサッカー、なぎなたなど全12種目を体験しながら、普段は馴染みのないスポーツに楽しく親しんでいた。

児童ら12種目のスポーツをいきいきと体験



卓球



相撲



剣道



野球



陸上競技



バレーボール

シマの話題

その1

郡体男子バレー喜界で開催

喜界、悔やまれる3位

「この敗戦を糧にチームの再構築はかる」

第65回県民体育大会・第52回大島地区大会（郡体）は7月8日から10日まで、群島各地で男女・混成36競技が一齐に開催され、本町では男子バレーボール競技があった。

ここ数年、コンスタントにベスト4に食い込む喜界男子バレーボールチーム（原田彰監督）は今回、28年ぶりの地元開催に燃え、優勝を期して練習に打ち込んだという。



相手ブロックの上から攻める上地

初日、予選リンクAに入った喜界は、前回優勝の和泊といきなり

激突。優勝候補筆頭の強豪チームと一進一退の攻防を繰り返して、堅い守備とエース上地徳人のスパイクが要所で決まり、セットカウント2-0で勝利を収めた。続く2戦目は知名。優勝候補の和泊に勝利して勢いづく喜界は2セット連続し、予選は1セットも落とさず決勝トーナメントへ駒を進めた。



相手攻撃をブロックする中澤浩樹(右)

高く厚い決勝戦への壁…

2日目、予選1位通過により準決勝から登場の喜界は、準々決勝で宇検との激戦を制した奄美との対戦。予選の快進撃を受けて周囲の期待が高まるも、選手たちは前日から一転して動きが固く、序盤からリードを許す展開となつて1セット目を落とす。2セット目は体勢を立て直して上地にボールを



前回優勝の和泊に勝利し喜ぶ喜界チーム

集めつつ、西田重樹らの攻撃も効果的に決まり、守つては東健一を中心に粘りを見せて、セットを奪い返した。

第3セット、1セット目と同じく序盤からリードを許す苦しい展開が続く。最後まで途切れない地元観客の大声援の中、最後まであきらめずに必死に食らいついたが、ここ数年、喜界に立ちほだかる「決勝への壁」を前に力尽きた。

決勝戦は、奄美と喜界戦での敗戦をバネに勝ち上がった和泊が顔を合わせ、フルセットの末、奄美が優勝した。

試合を終えて原田監督は「喜界チームは先行逃げ切り型。攻めた強いが守りに入ればもろい。初戦は思い切りぶつかり、地元の皆様の声援が大きな力となり勝利できた。奄美戦は力負けの実感はない。挑戦者の立場を忘れて受けに回り、『普段どおり』『平常心』を保つ難しさを実感した。練習相手不足は言い訳にならない。相手の情報も大切だが、自分たちの良さを認識すべきとを感じる。技術では負けてないので『たたかう姿勢』をいかに確立するかが、これから一年の課題となった」と総括した。

なお、今大会は中学高校のバレーボール部員や町バレーボール



スタッフで揃えたポロシャツ「ありがとう」でできた「喜」



最後まで声を枯らした100スポーツクラブ(小学生)の応援団

大会終了後は、コート上でのぎを削ったチーム同志が「奄美群島はひとつ」と、互いの健闘を称え合い、遅くまで黒糖焼酎を傾けつつ交流を深めたという。

**元プロバスケット選手が来島！
基礎から実践まで技術指導**

日本バスケットリーグ（JBL）の日立電線ブルドッグスで活躍した元プロバスケットボール選手の盛重洋志さん（現・奄美高校工業科教諭）が7月24日、喜界島を訪れ、町体育館で高校生や中学生、100スポーツクラブ会員（小学生）に指導した。



丁寧・熱心に指導した盛重さん（左）

盛重さんは鹿児島工業高等専門学校などを経てプロ入りし、九州選手権大会3連覇やオールジャパンプール協会の前川寛さん（赤連）と九州大会などで知り合い、前川さんの「喜界の子どもたちに指導してほしい」との依頼を快諾して

来島が実現した。

盛重さんは、準備運動の方法をはじめ、基礎練習、ドリブル時に手元やボールを見るのではなく、周囲を見渡せるようにドリブルしながら「鬼ごっこ」など、実践的な練習法まで、子どもたちが楽しめるように工夫をしながら丁寧な指導した。

指導を受けた龍田翔君（喜高3年）は「高い意識を持ちながらの基礎練習は難しく、改めて基礎の大切さが分かった」と礼儀正しく話した。

盛重さんは「色々な所で教えているが、短時間で笑顔を見せる子どもたちは初めて。教えられたことを素直に吸収していた」と練習に取り込む姿勢を評価した。

**「町民の生命・財産を守る」
第2回町消防団操法研修会**

消防操法の技術向上を目的として、第2回喜界町消防団操法研修会が7月3日、第二中グラウンドであった。

町内の消防団から9分団96人が参加し、操作、手順、動作、呼唱などについて研修を受けた。

その後、操法演習があり、タンク車の部2チーム、ポンプ車の部2チーム、小型ポンプの部6チームが参加。各チームの放水までの



消防団操法研修会の様子

時間を計りながら、気合いの入った呼唱・伝達・合図やキビキビとした動作で、正確かつ迅速な操作を披露した。

ある参加者は「訓練に『これで充分』はない。出番がないことが一番だが、いざという時のために、常に技術向上に努めたい」と話した。

**公明党・山口代表が来島
町長らと意見交換**

公明党の山口那津男代表が7月16日、加藤啓雄町長と意見交換をするため来島した。

山口代表は、離島の課題に精通する遠山清彦衆議院議員や公明党県議、党職員などと空路喜界島入りし、生駒弘町議も合流して加藤啓雄町長を表彰訪問。この日に合わせ、事前に生駒町議を通して山口代表に送付した要望書を中心

に、意見を交換した。

要望書の内容は、離島航路・航空運賃対策、農業振興、光ファイバー網整備、地震・津波対策、緊急医療・産科医対策など多岐にわたった。これらを受けて山口代表は「離島をはじめ地域振興も大きな党の方針としており、これらの貴重な要望は、責任を持って国政の場に反映させたい」と話した。

その後、山口代表一行は島内一円を視察し、翌日には奄美大島へと向かった。

この日は、昨年続き打越あかし衆議院議員も来島し（本誌平成22年9月号参照）、農業や商工観光業の関係者らと意見交換をした。



町長らと意見を交わす山口代表（右）

**『宝の島プロジェクト』で
漂着「ミシ」をエネルギーに！**

離島における海岸漂着ごみ問題の解決などを目的とした（社）日本海難防止協会の『宝の島プロジェクト』の一環として7月23日、同プロジェクトの公開実験イベントが役場駐車場で行われた。

イベントでは、トラックに搭載した油化装置で、島の海岸に漂着した発泡スチロールなどをスチレン油に変換するデモンストラーション油を披露。これを利用して発電し、見学の子どもらにワタ菓子やカキ氷をプレゼントし、川畑さおりさんらによる余興の音響装置の電源に使用した。

参加した澄田豪くん（湾小4年）は「ゴミが油になってビックリ。島からゴミがなくなるかも」と驚いていた。



『宝の島プロジェクト』イベントの様子



円陣を組んで選手を鼓舞する碓山監督
「勝ち負けは気にするな！」(サッカー)

第38回大島地区スポーツ少年団競技別交歓大会

第38大島地区スポーツ少年団競技別交歓大会が7月23日(土)、奄美市を中心に開催されました。本町からは、7競技93名が参加しました。

競技結果(入賞)は、次のとおりです。

《卓球》団体男子3位、団体女子2位、女子個人5・6年生以下3位(生田碧)、4年生以下1位(盛友愛)、3位(本田美華)、《軟式野球》ブロック別3位、《ソフトボール》ブロック別2位、《バレーボール男子》3位(県大会予選兼)



達成して約三ヶ月。勝負は二次で目標は力を出し切ることでしたが「緊張しました」



総勢50人の名門・ガッツ喜界。個々の力は劣らないが「試合慣れしていない」が課題?



エース吉崎の小学生離れしたスパイクで予選を勝ち上がったものの、準決勝で優勝チームに惜敗

喜界町教職員教育講演会が行われる

七月二十七日(水)に喜界町教職員教育講演会(町教育委員会主催)が喜界町自然休養村管理センター大研修室であり、町内各幼稚園、小・中学校から約百十名が参加しました。

本年度は、鹿児島県総合教育センター中野健作(なかのけんさく)所長を講師に迎え、「教育に携わる者の矜持(誇り)を胸に」という演題で講演をしていただきました。

初めに教育を考える視点を7つ

示し、国の動向を受け鹿児島県がどのような取組を行っているかを話しました。その中で学習意識調査より子どもの学習意欲と家庭学習の時間が40年前と比較して年々減少傾向にあること、また小学校6年生から中学校1年生にかけてのいわゆる中1ギャップと呼ばれる時期に学力定着に向けての課題があることを話されました。また、保護者の要望や社会の情勢の変化、価値観の変容など学校や教職員を取り巻く状況が厳しくなっていることを踏まえ、教師は、厳しさをもち教育に携わる重要性を話されました。そして、教育が人づくりであることを踏まえ、次世代に引く次々べきこととして日本人としての心を忘れてはならないことを話されました。

さらに、社会の発展に伴い、社会が求める学力観・教育観も変容しており、先進国として日本(人)は、何を目標にしていくのか、また時代を超えて大切にしていきたいのは何か話され、教育における不易と流行の大切さについて指導されました。また、子どもたちの学力を向上させるために大切なこととして教職員の資質向上が必要であることを全国の優秀教員を対象にした調査や学力の高い秋田県の

取組事例の紹介を通して「真の教育は、魂の設計」であること話をされました。

最後に、今こそ「感動と感化」の教育を目指すべきであるとクランク博士の言葉や昭和四十七年九月に鹿児島県盲語学校を訪問された美智子妃殿下のエピソードをもとに、教育に携わる者として常に矜持を胸に頑張っしてほしいと激励の言葉をいただき講演を終わりました。

講演を聞いた先生方も一学期を終えた今、これまでの学校での教育活動を振り返り、これからの教育活動へ意欲を高めることでした。



ママの話題

その2



盛山さん(一中3年)が広報紙の一日編集者に挑戦!!

第一中学校(作井望校長、生徒170人)の生徒らは7月3日・4日の2日間、『総合的な学習』の一環として、町内の企業や公共機関などで職場体験学習をした。

同校3年の盛山田香さんは役場企画課を希望し、広報きかいの編集などに挑戦した。盛山さんは、毎月広報きかいを楽しみに読んでいたといい、昨年に職場体験の記事が掲載されているのを見て、「来年はここに行きたい!」と思ったという。

初日は、いきなり朝一番にスギラビーチのハマゴボウが盗掘されたとの通報が同課にあり、盛山さんは自然保護担当職員に同行。通報者への聞き取りや現場調査に立ち会った。役場にもどってからも、手久津久のトーチカ(コンクリートで構築された戦場の防衛陣地)などを取材した。

午後からは、広報紙担当職員から取材の方法や記事の書き方について学んだ後、自身が通う第一中学校へ『母校訪問思い出は永遠



作井校長にインタビューする盛山さん(右)

に『コーナーの取材に同行。』記者」となって、作井校長にインタビューをした。

翌日は、役場各課の業務内容などの説明を受け、百之台公園の案内板設置作業の手伝いなどをした。2日間の職場体験を終えて盛山さんは「日頃は読む側の広報きかいを作る側として体験し、いつもとは違う立場で一中を訪れた。普段とは違う目線で物事を見つめるといういろいろな発見があり、とても貴重な二日間になった」と話した。(※編者より この記事は、盛山さん自身が執筆し、彼女の素晴らしい構成力や表現力を生かすため、ほぼ原文のまま掲載しました。)

喜界と伊佐の児童が交流学習 ―島の文化や自然を満喫―

本町と姉妹都市盟約を結ぶ伊佐市の平出水小学校(有馬えり子校長、児童25人)の児童や保護者、教員ら25人(うち児童12人)は7月16日と17日、喜界島を訪れ、小野津小児童らと交流しながら島の歴史や文化を学び、自然と親しんだ。小野津小が昨年、伊佐市に招かれたことがきっかけで、今回の交流が実現したという。

接近する台風6号の影響で、当初の3日間から2日間に日程が短縮されたものの、初日は、普段から小野津小と交流がある阿伝、坂嶺の両校児童も合流し、地下ダムや阿伝の石垣などを見学。Aコープでの伊佐米販売や、小野津校区民の協力を得ながら追い込み漁などもした。



追い込み漁では色鮮やかな魚にビックリ



最後はみんなで「小野津カレー」!

昭和57年から同61年に生まれた年代で作るグループ(名称未定、益田辰也代表世話人)は6月26日、ユリ自生地環境向上のため、荒木海岸の下刈りをした。

島を思う若者ら、ユリ復活を 想い海岸を下刈り

今回は35人のメンバーが参加。ムタグラウンド下の海岸のススキやギンネムなどの雑草・雑木を伐採した。

益田さんは「以前から『島のためになることはないか』という思いで、色んなことに取り組んでいる。以前は、この一帯を覆うほどユリが咲いていたと聞いているが、その景観を復活できれば」と話した。

同グループはこの数年、海岸漂着ゴミの撤去や各地区の清掃作業などにも取り組んでいる。



またたく間に「サーザー」となった荒木海岸

「奄美若者サポートステーション」 をご利用ください

ニート(若年無業者)、ひきこもり等悩みを抱える若者の職業的自立を
サポートします。

《支援内容》

○相談(面談・電話・メール)

現在の状況を客観的に見つめ、自立へ向けてのステップを一緒に考えます。生活習慣の改善等、
まずは小さな目標を立ててみます。

○職場見学・職業体験

様々な企業・施設への訪問や農作業体験・パソコン練習等多種多様な活動を通して、就職に向け
た心構えや技能を身につけます。

○家族のサポート

相談員がじっくりとお話を聞きます。また同じ悩みを抱える家族同士で語り合う場を設けます。

ひとりで悩まないで、はじめの一步を踏み出してみませんか。

【開所時間】月曜～金曜 午前9時～午後6時(相談受付は午後5時まで)

※土・日・祝祭日・年末年始は休み

【連絡先】〒894-0036 奄美市名瀬長浜町23-25

NPO 法人奄美青少年支援センター「ゆずり葉の郷」内

奄美若者サポートステーション

電話 0997-57-0770 (FAX兼用)

Eメール amami-saposute@polka.ocn.ne.jp

ホームページ <http://amami-saposute.sakura.ne.jp/>



住宅用火災警報器を設置しましょう

平成23年6月1日から全ての住宅に「住宅用火災警報器」の設置が必要になりました。
火災で重要なことは、早期発見です。ご家族の安全と地域の防火対策のため、1日でも早く
「住宅用火災警報器」を設置しましょう。

設置が完了したお宅は、消防署まで電話にてご連絡ください。

※設置に関する詳しいお問い合わせは消防署までご連絡ください。

喜界消防分署

TEL0997-65-3311



すこやか ニユース

家庭での食中毒を
予防しましょう！

厚生労働省は、国民が健康で安心できる食生活を送るために八月を「食品衛生月間」と定め、食中毒事故の防止と食品衛生思想の普及・啓発を推進しています。

食中毒は、家庭でも多く発生しており、特に夏季は細菌性の食中毒が発生しやすく注意が必要です。そこで、食中毒の予防方法についてお知らせします。

☆食中毒予防のポイント☆

- ①食品購入の際は消費期限・賞味期限などをチェックし、新鮮な物を購入する。
- ②購入した食品はすぐに冷蔵庫に保存する。冷蔵庫の詰めすぎにも注意する。
- ③調理前は手を洗い、まな板や包丁の洗浄殺菌も十分にやる。
- ④加熱は食品の内部まで十分に行う。
- ⑤清潔な器具・食器を使用し、調理した食品はなるべく早く食べる。
- ⑥残った食品は時間がたちすぎたり、怪しいと思ったら思い切って捨てる。

☆食中毒予防のポイント☆

サルモネラ

カンピロバクター

主な感染源は肉や鶏卵など。生肉を扱った後の手、まな板、包丁などはすぐに洗う。

腸炎ビブリオ

夏場、近海でとれる魚介類から検出される。お刺身は冷蔵庫で保管する。

黄色ブドウ球菌

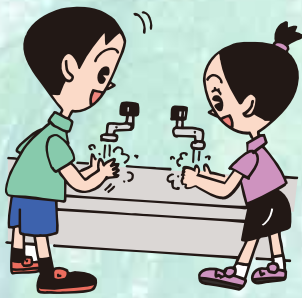
手指の傷口に多く付着している。傷がある手で調理しないようにする。

ノロウイルス

冬場に発生しやすく、生カキや調理人の手を介して感染する。手洗いをしっかりと行い、下痢など体調の悪い時は調理をしない。

腸管出血性大腸菌

代表的なものはO・157。主な感染源は肉類。食肉を生や加熱不足の状態では食べる事で感染する。主な症状は水様下痢、激しい腹痛、血便、嘔吐、発熱。75度で1分間の加熱で死滅する。



手洗いを心がけよう！

3歳児健診でむし歯ゼロだったよ！



渉 花咲ちゃん



峰山喜成くん



豊 雄翔くん



山本蒼生くん



平野 陸くん

黒糖・黒砂糖の商品の表示が変わります

黒糖・黒砂糖とは？

さとうきびの搾り汁に中和・沈殿等による不純物の除去を行い、煮沸による濃縮を行った後、糖蜜分の分離等の加工を行わずに、冷却して製造した砂糖で、固形または粉末状のものです。

また、黒糖と黒砂糖は同じもので、違いはありません。

どのようなことが変わりますか？

※黒糖ではない商品に、「黒糖」「黒砂糖」の商品名を使用できません。

※黒糖を使用していないのに、「黒砂糖入り」「〇〇黒砂糖」「黒糖〇〇」などと表示することはできません。

※加工黒糖や再製糖の場合は、名称表示に「黒糖」「黒砂糖」は使用できませんので、「加工黒糖」と表示しなければなりません。

※黒糖の原産国や国内であれば生産地名（例：喜界町・喜界島・沖縄県など）を表示しなければなりません。

問合先：鹿児島県食品表示110番（食品表示総合窓口）

TEL 099-286-2855（県庁生活・文化課消費者行政推進室）

8月は人権同和問題啓発強調月間です

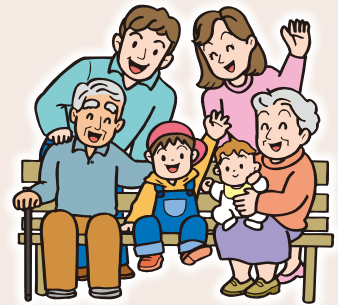
鹿児島県では、8月を「人権同和問題啓発強調月間」と定め、この期間中にテレビ、ラジオスポットによる啓発放送や新聞広告、じんけんフェスタ 2011 の開催など、様々な人権啓発活動を集中的に実施します。

私たちの社会には、同和問題をはじめ、子どもや高齢者への虐待、女性、障がい者等に関する人権問題が、依然として存在しています。

また、東日本大震災に伴い、原発事故のあった福島県からの避難者が差別される事案の報道もありました。

これらの人権問題を解決するためには、県民一人ひとりがお互いの人権を尊重し、偏見や差別のない社会の実現に向けて意識を高めていくことが大切です。

この機会に、皆さんも身近なことから人権について考えてみませんか。



お問い合わせ先

鹿児島県人権同和対策課 099(286)2574

人権に関することは・・・人権擁護委員へご相談下さい。
喜界町人権擁護委員（平成23年8月1日現在）
金久 三津枝（先山）、体岡 光子（坂嶺）、基井 宏信（阿伝）



平成23年度自衛官募集案内



募集種目		資格	受付期間	試験期日	待遇・その他
防衛大学校 学 生	推薦	高卒(見込含)21歳未満の者 (高等学校長の推薦等が必要)	9月5日～9月8日	9月 24・25日	修学年限4年 卒業後 1年で3等陸・海・空尉
	一般	高卒(見込含)21歳未満の者 (自衛官は23歳未満)	9月5日～9月30日	1次 11月 5・6日 2次 12月 13～17日	
防衛医科大学校 学 生		高卒(見込含)21歳未満の者	9月5日～9月30日	1次 10月 29・30日 2次 12月 7～9日	修学年限6年 医師免許 取得後2等陸・海・空尉
防衛医科大学校 高等看護		18歳以上24歳未満の者	9月1日～9月30日 (予定)	10月中旬頃	詳しくは担当へ お問い合わせください
航空学 生		高卒(見込含)21歳未満の者	8月1日～9月9日 ※1	1次 9月 23日 2次 10月 15～20日 3次 11月 12日～12月15日	入隊後約6年で 3等海・空尉
看護学 生		高卒(見込含)24歳未満の者	9月5日～9月30日	1次 10月 22日 2次 11月 19・20日	修学年限3年 看護師 免許取得後2等陸曹
一般曹候補生		18歳以上27歳未満の者	8月1日～9月9日 ※1	1次 9月 17日 2次 10月 6～13日	入隊後2年9月経過以降 選考により3等陸・海・空曹
自衛官 候補生 (任期制)	男子	18歳以上27歳未満の者	8月1日～9月9日 ※1	9月15日～9月17日 ※2	陸上(技術系を除く)は1年9ヶ月 陸上(技術系)・海上・航空は 2年9ヶ月を1任期として任用 (以降2年を1任期)
	女子	18歳以上27歳未満の者	8月1日～9月9日 ※1	9月25日～28日 ※ いづれか指定する日	
高等工科 学校 生徒		中卒(見込含)17歳未満の者	11月1日 ※1 ～24年1月6日	1次 24年1月14日 2次 24年1月28～31日	修学年限3年 卒業後は陸士長

※1 平成24年3月中学校・高等学校卒業予定者、中等教育学校前期課程修了予定者又は中等教育学校卒業予定者の受付については、上表にかかわらず、文部科学・厚生労働両省から示された期日以降実施いたします。

※2 平成24年3月高等学校卒業予定者又は中等教育学校卒業予定者のための採用試験は、原則として平成23年9月16日以降に行います。

問い合わせ先：自衛隊奄美大島事務所 担当：渡広報官 TEL53-9103 喜界町役場総務課 担当：園田 TEL65-1111

安達征一郎文学と喜界島八月踊りを発信！！

～筑紫女学園大学と九州国立博物館で～

シマの話題

その3



幼少期を喜界島で過ごし、直木賞候補にもなった小説家、安達征一郎氏と喜界島に古くから伝わる八月踊りが、筑紫女学園大学文学部（福岡・太宰府市）の公開講義「安達征一郎文学と喜界島八月踊り」として7月9日午前、同大学で紹介された。奄美や沖縄の文学も研究する同大学の松下博文教授が企画し、本町出身の小柳道枝太宰府市市議会議員の尽力で実現した。

安達氏については、喜界島郷土研究会の北島公一さん（佐手久）が、昨年11月に赤連に建立された氏の文学碑の除幕の様子と小説に影響を与えた喜界島の原風景を紹介した。

八月踊りは、志戸桶十五夜会が『うるしうるし節』『フウミンニヤベエ』『風雲（カサクムー）』『サッカキ山』を、あわせて喜界島民謡保存会が『朝花』『ストン節』『いきゅんにゃかな』『六調』などを披露した。

同行した外内千里町文化協会会長は「学生らか

らは質疑応答の時に質問攻めにされた。特にハトウ（口笛）や奄美の三味線に興味を持ったようだ。松下教授から『このような公開講座で予定時間を過ぎて質問があるのは珍しい』と言われた」などと話した。

同日午後は、九州国立博物館でも同様に八月踊りや島唄を披露し、同日夜は、同市内のホテルで同大学関係者や福岡喜界会有志などとの交流会で親睦を深めた。



国立九州博物館の前で記念撮影

喜界島方言調査団リレーエッセー

喜界島の方言を残そう⑦

姜英淑（かんよんすく・松山大学外国人特別専任講師）

偶然の再会

韓国行きの飛行機の中で、機内に備え付けの雑誌一冊を手にしてパラパラ捲ってみた。あるページに私の目を引く記事があった。「島唄専門ラジオ喜界島」というタイトルの記事だった。「喜界島」という文字が浮き上がるように見えて、思いもよらない所でその文字を見かけた時は知り合いと偶然町で出会ったかのような驚きと喜びだった。

去年9月国立国語研究所の企画で、喜界島方言合同調査に参加し、初めて喜界島を訪れた。喜界島へ行く前までは、かなり不安だったことを覚えていいる。私にとって日本語は外国語であり、日本に来てからは東京でしか住んだことがないため、奄美方言が私に分かるのかなという疑問、だから調査についていけないのではないかという不安感、でもどのような方言なのか体験してみたという期待感でドキドキしていた。今は、そのような不安感なども島の自然、人々、方言と共にすべてが大事な思い出になっている。記事は、島唄と三線、「ラジオ喜

界島」を運営するある人を中心に、その文化と自然を次代に伝えていくとする人たちを紹介していた。「ラジオ喜界島」は、主に島唄を発信していて、全編方言でできている島唄を大事に記録し伝えていくことを目的として活動しているインターネットラジオだそう。また、役場のホールで行われている安田民謡教室が、そこで習っている人達の写真と一緒に、紹介されていた。

去年、合同調査団の歓迎会が開かれた場所だと思いき、じっくり写真を見ていたら写真の中に知っている顔が写っていた。英語教師として赴任しているアメリカ人のアダムさんで、去年の歓迎会で、島唄に合わせて皆と一緒に踊ったことを覚えていいる。写真の中で三線を抱えている姿がよく似合っている。あの時の歓迎会は外国人の私にとっては特別な体験だった。プロの唄者が唄う民謡はとても迫力あって、伸びがあって心地よく聞こえた。沖縄民謡とも似ていて、これらの島唄を聞いた時には韓国の民謡とも非常に似ていると感じた。韓国の民謡も裏声をよ

く使って唄うのがコツである。歓迎会で一緒に踊った踊りも、韓国の伝統の踊りと似通っていて、最初はぎこちない動きだったがすぐ慣れた。韓国は腕全体と手首をしなやかに使うのだが、日本は手首を上手に使うんだなと感じた。その動きは福を手招きしていることに由来すると思っ後から教えられてなるほどと思っ。民謡が似ていたり、踊りの動きが似ていたりすることは偶然のことではなく、大昔からお互い影響し合っていたからだなど素人でありながらも思った。

去年の合同調査の後、韓国行きの飛行機の中で、このような形で「喜界島」と再会したのがとても嬉しかった。雑誌に載っていた「ラジオ喜界島」をネットで聞いてみようと思う。



方言調査の様子（塩道）

喜界歌壇

〈ミニミニ会〉

しなやかに花びら揺るる危ふきよ
葉月しずけき木槿の季節

嶺倉 祝子

愛国心に燃えて命を捧げたる
学徒を偲ぶ八月の空

林 蓮香

※先月号の林蓮香さんの句に誤植がありましたので、訂正して再掲します。「つぐむ」→「つむぐ」

短歌の道生涯歩んでいきたくしと思
い浮かべばことばをつむぐ

くちなしの実の熟れを待ち糸を黄
に染めて手提げを編みし遠き日

黒潮の流るる面を見はるかす
我が島守りの森の天神

平尾 千ヨ

敗戦に苦しみ緻にて開墾せし
台地は通信の塔めぐり立つ

弥島 幸子

〈萌業会〉

短歌作り五感育み邪悪払ひ老ひも
研がるる日々のごよび

豊島 瞳

台風のうなり声にて鳥は去り
樹木もたゆとうて息をひそめる

井澤紀美子

明け方にブラックでコーヒー至福
なり一氣に目覚め妙業となりぬ

平島 初子

「ありがとう」吾子らに届けし贈
物夫笑顔零れ父の日乾杯

前田喜代美

戦死公報受け泣くことさえも憚ら
れ芭蕉の葉陰に月仰ぎいし

美代 イシ

貫きてなでしこスタイル芯つよる
天下をとりて仲間とうれしむ

島崎 久代

父母の小畑芽出る傍らに
真白に映ゆるとうむじの花

徳 成寿

『税で創る、あかるい未来』
8月末日は、
町県民税税2期分

の納付期限です。

納期内に必ず納めましょう。

戸籍の窓

こんにちは

赤ちゃん

氏名	保護者	住所
池 麻希	克章	赤連
赤崎 日渚	哲朗	塩道
中督紋之城	洋志	大朝戸
益田 大誠	大進	湾
勇 里お花	美幸	赤連
向吉 悠珠	光一	赤連
宮本 麗菜	一徹	花良治

いつまでも
お幸せに



氏名	住所
川村 秀章	坂嶺
バリナガイカステイリヨ、	アリシア・比国



ごめい福を
お祈りします



住所	氏名	年齢
湾	酒井 久安	67才
池治	植田 協子	64才
荒木	玉利 繁光	84才
赤連	吉田 園枝	85才
志戸桶	平田 常助	96才
上嘉鉄	前川 ミツ	84才
志戸桶	福山 ケイ	99才

ふるさと寄附者
(敬称略)

加藤 末昭	千葉県
平田 稔	大阪府

社協だより

■香典返し(敬称略)

中間 伊東	和子
川嶺 光岡	美智子
池治 植田	國夫
荒木 玉利	博道
赤連 吉田	定仁



喜界町の推計人口

(平成23年8月1日現在)

世帯数	3,611戸	(△9)
人口	8,081人	(△11)
男	3,868人	(△5)
女	4,213人	(△6)
()	は前月比	

今月のウヤフジ訓 11

インニュミカニヤー

(インニュミ食いの)

ヤートーラー

(家倒し)

解説

インニュミとは、麦粉(はったい粉)に黒砂糖を混ぜ合わせたもの。

昔、インニュミは高価であり、庶民の口には滅多に入らなかった。

そんな高級品を毎日のお茶請け(茶事請け・サジウキ)にしていると、家を傾けてしまう。「ぜいたくはするな」という戒め。

ヒメハマナデシコ(姫浜撫子)

日本固有種で、和歌山県から沖縄県西表島までの海岸線に自生するナデシコ科ナデシコ属の多年草。ナデシコは品種改良された園芸種が数多くあるが、これは在来種である。なお、ナデシコとはナデシコ属の総称で、一般的に「ナデシコ」と呼ばれる園芸種の名種となった品種は、「カワラナデシコ(ヤマトナデシコ)」である。他に、ハマナデシコやシナノナデシコなどがある。



ナデシコ属の花言葉は「純愛」「大胆」「勇敢」。

強風吹きすさぶ養分の少ない浜辺や岩場で、それでもしっかりと根を張り、小さく可憐な花を咲かせるヒメハマナデシコは、体格・体力で圧倒する欧米の強豪を次々と打ち破って世界一に輝いたサッカーW杯の「なでしこジャパン」と見事に重なる。この花を見つけて「島にも撫子がいたのだ」と感動した。



ウナズキヘリコニア

熱帯アメリカ原産のオウムバナ(ヘリコニア)科オウムバナ(ヘリコニア)属の常緑多年草。オウムバナ科はバショウ科から分かれた科であり、1属に約80種ある。

草丈は3mほどになり、花序は30cmほど垂れ下がる。赤く見えるのは花びらではなく「ガク(萼)」であり、イチゴやナスの「ヘタ(蒂)」にあたる部分である。そのカニバサミのような形のガクの中に、花はひっそりと咲いている。バショウ科に近いことから、葉はバナナやゴクラクチョウカのそれと似る。花言葉は不明。



パピリオナンテ・テレス

中国南部からインド北部、ネパール、インドシナが原産のラン科ヒスイラン(バンダ)属の多年草。別名でバンダ・テレス、中国名で凤蝶蘭(凤とは不死鳥「鳳凰」。雄を「凤」、雌を「凰」)。

細長く3メートルにも達する茎に棒状の葉がわずかに付く地味な植物であるが、ひとたびカトレアに似る花を咲かせると様子は一変し、周囲までも華やかな雰囲気を出して見応えがある。純白の花を付ける改良品種『オオヤマザキ』などもある。病害虫に強く、強い日差しを好む。花言葉は不明。



中第一中学校

校長：作井 望(第22代)、教職員19人・生徒数170人・学級数7



学校概要

第一中学校は昭和23年、学制改革により新制中学校として開校して現在にいたる(当初、敷地内に町立実業高校も併設された)。

現在では、「日々成長する一中生」をキャッチフレーズに、一人ひとりに居場所ある学級・教科運営を心掛けながら、学習習熟度に合わせて個別指導にも力を入れている。

また、郷土の歴史や文化を学ぼうと、「総合的学習の時間」を利用して、年4回の「きかい学」を開講している。

部活動の活躍も目覚ましく、昭和49年の県中学野球大会優勝を始め、女子バレーや女子駅伝、男子テニス、サッカー、合唱や吹奏楽などが郡や県の大会で優勝している。最近では、大島地区駅伝大会男子の部で平成14年以降、ほぼ毎年優勝を独占するなど、陸上競技全般での活躍が目立つ。

生徒会も、積極的に生徒間で意見を出し合うなど自主的に活動しており、新入生への「生徒会入会式」では、学校の一日を劇にして披露し、あわせて部活動紹介なども生徒会主導で行っている。

保護者も積極的・協力的であり、

父親で作る「おやじの会」は、土日パトロールや登校時の校門あいさつなどに取り組んでいる。今年度で閉校となるため、思い出に残る体育大会や文化祭の開催や、これまでの集大成となる閉校式や記念誌発行の準備に、関係者らと協力して取りかかっているという。



昭和20年代、校庭奥に茅葺き校舎が見える



部活動の様子(吹奏楽部)



生徒会入会式の様子(女子バスケ部紹介)

校歌

作詞 上原富雄
作曲 田畑正隆

一見よ連綿の 文の町
千古をひむる 緑島
海を控えて 鎮もれる
ここ天神の 朝ぼらけ
松風いまや 胸をうつ
これぞ我等の 喜界一中

二紫紺のみ空 輝きて
海山ほゆる 自治の華
学びの徳を 身にしみて
人の亀鑑と 仰がれん
新しき鐘 つくぞ今
これぞ我等の 喜界一中

三見よ四方の海 荒ぶとも
血潮はおどる 希望あり
輝く平和の かじとりて
理想の島を うちたてん
勇む健児の 意気しるや
これぞ我等の 喜界一中

〈校訓〉
自主・創造
好学・健康
礼儀

児童数等の推移

年度	児童数	学級数
昭和41	606	15
46	519	14
50	448	11
55	308	8
63	276	9
平成元	262	9
5	262	7
10	250	9
15	199	7
21	177	7



「おやじの会」による朝のあいさつ活動